




OpenManage Integration for VMware vCenter vSphere Client バージョン 3.1 用クイックイン ストールガイド



メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2016 Dell Inc. 無断転載を禁じます。 この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell™、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

January 2016

Rev. A00

目次

1 Dell OpenManage Integration for VMware vCenter のインストール.....	5
インストールについて.....	5
作業を開始する前に.....	5
OpenManage Ingetration プラグイン 3.0 バージョンから現在のバージョンへのアップグレード.....	15
2.x から 3.1 への移行のための移行パス.....	15
旧プラグインの登録が解除された場合に OpenManage Integration for VMware vCenter を回復する.....	16
2 OpenManage Integration for VMware vCenter の設定	17
設定ウィザードようこそページ.....	17
新規接続プロファイルの作成ウィザード.....	17
イベントおよびアラームの設定ウィザード.....	18
プロキシサーバーの設定ウィザード.....	19
インベントリジョブのスケジュールウィザード.....	19
保証取得ジョブウィザードの実行.....	20
展開資格情報の設定ウィザード.....	20
デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定ウィザード.....	21
OMSA リンクの有効化ウィザード.....	22
Dell iDRAC Auto-Discovery の設定	22
NFS 共有の設定.....	23
3 OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンス.....	24
ライセンスタイプ.....	24
評価用ライセンス 標準ライセンス.....	24
アップロード済みライセンスに関する情報の表示.....	24
ライセンスのアップロード.....	25
ライセンスのアップロード後のオプション.....	25
新しく購入された製品のライセンスファイル.....	25
ライセンスのスタッキング.....	26
期限切れのライセンス.....	26
ライセンスの交換	26
強制.....	26
アプライアンスのアップデート.....	26
評価用ライセンス.....	26
接続プロファイルへのホストの追加.....	26
4 その他の構成情報.....	27

5 関連文書とリソース	28
デルサポートサイトからの文書へのアクセス.....	28

Dell OpenManage Integration for VMware vCenter のインストール

インストールについて

本書は、OpenManage Integration for VMware vCenter (OMIVV) のインストールおよび設定の手順について説明しています。インストールが完了したら、インベントリ管理、監視とアラート、ファームウェアのアップデート、展開とプロビジョン、および保証管理を含むすべての管理面に関する情報について『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）（dell.com/support/manuals）を参照してください。

作業を開始する前に

OMIVV のインストールを開始する前に、次の情報が必要です。

- OMIVV 仮想アプライアンスに設定される TCP/IP アドレス情報。
- OMIVV が vCenter Server にアクセスするためのユーザー名およびパスワード。このユーザーは、すべての必要な許可を持つ管理者役割である必要があります。vCenter 内で使用できる OMIVV の役割についての詳細は、dell.com/support/manuals の『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。
- ESXi ホストシステム、またはホスト上の管理者権限を持つ Active Directory 資格情報の root パスワード。
- iDRAC Express または Enterprise に関連付けられたユーザー名とパスワード。
- vCenter サーバーおよび vSphere Client が利用可能であることを確認します。
- OMIVV OVF ファイルの場所。
- VMware vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たしている必要があります。また、OMIVV の URL が Internet Explorer ブラウザの信頼済みサイトに属している必要があります。





メモ:

Adobe Flash Player を vSphere Client システムにインストールします。Windows Server 2012 以降では、Internet Explorer ブラウザの Flash Player を有効にするには、**デスクトップエクスペリエンス機能** を有効にする必要があります。ESXi ホストに OMIVV（仮想アプライアンス）をインストールします。サポートされている Flash Player のバージョンの詳細については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』（OpenManage Integration for VMware vCenter の互換性マトリックス）を参照してください。



メモ: 通常の仮想マシンとしての仮想アプライアンスの機能。中断またはシャットダウンは、仮想アプライアンスの全体的な機能に影響を与えます。

 **メモ:** OMIVV は、ESXi 5.5 以降に導入されたとき VMware ツールを に、**実行中（旧式）** として表示します。アプライアンスの導入が正常に行われた後、またはその後必要に応じて VMware ツールをアップグレードできます。

 **メモ:** OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

ハードウェア要件

OMIVV のハードウェア要件は次のとおりです。

- サポートされているサーバーと BIOS の最小要件
- サポートされている iDRAC バージョン（導入および管理の両方）
- OMSA は旧式のサーバーと ESXi バージョンのサポートに対応（導入と管理の両方）しています。詳細に関しては、dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』（OpenManage Integration for VMware vCenter の互換性マトリックス）を参照してください。

ソフトウェア要件

vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。

VMware vSphere にはデスクトップクライアントとウェブクライアントの両方があります。

特定のソフトウェア要件については、dell.com/support/manuals にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*（OpenManage Integration for VMware 互換性マトリックス）を参照してください。

OpenManage Integration for VMware vCenter のポート要件

ポート	コンソール
443 (https) および 80 (http)	管理コンソール
4433(https)	自動検出とハンドシェイク
162 および 11620	SNMP トラップリスナ
2049、4001、4002、4003、4004	NFS 共有

インストールと設定の概要

以下は OMIVV インストール手順の概要です。実際にインストールを開始するには、「[vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入](#)」を参照してください。

インストールの概要

1. OMIVV をインストールします。
 - a. vCenter Server が稼働していることを確認してください。
 - b. vSphere Client を使用して、OMIVV を含む Open Virtualization Format (OVF) ファイルを展開します。
 - c. ライセンスファイルをアップロードします。
 - d. 管理コンソールを使用して OMIVV を vCenter Server に登録します。

2. 設定ウィザードの手順を完了します。
3. Dell イベントを有効にし、設定ページでイベントフィルタオプションをセットアップします。
4. ファームウェアアップデートを有効にして、ファームウェアのアップデートをダウンロードし、該当するシステムで使用できるようにします。
5. Dell iDRAC のユーザー名およびパスワードを設定します。

vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入

この手順は、デルのウェブサイトから ZIP ファイルをダウンロードしていることを前提としています。

vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入

1. OMIVV 仮想ディスクを含むファイルを解凍し、**setup.exe** を実行します。
2. Setup.exe ファイルをダブルクリックして EULA に同意し、OVF ファイルを解凍して取得します。
3. アプライアンスをアップロードする VMware vSphere ホストへのアクセスが可能な場所に、OVF ファイルをコピー / 移動します。
4. VMware vSphere クライアントを開始します。
5. VMware vSphere Client から、**ファイル → OVF テンプレートの展開** を選択します。
6. ソース ウィンドウで、**参照** ボタンを使用して OVF パッケージの場所を確認します。この場所はローカルドライブ、ネットワークドライブ、CD/DVD、またはインターネットからのいずれかです。OMIVV ファイルのサイズは約 1.5 GB です。



メモ: OVF パッケージがネットワーク共有にある場合、インストールには 10~30 分かかります。短時間でインストールしたい場合は、OVF をローカルでホストすることをお勧めします。

7. **次へ** をクリックします。
8. **OVF テンプレートの詳細** ウィンドウで、表示される情報を確認します。
9. **次へ** をクリックします。
10. **名前と場所** ウィンドウで次の手順を実行します。
 - a. **名前** テキストボックスで、テンプレートの名前を入力します。この名前は半角文字で 80 文字以下となるようにします。
 - b. **インベントリの場所** リストで、テンプレートを保存する場所を選択します。
11. **Next** (次へ) をクリックします。
12. vCenter の設定に応じて、次のオプションの 1 つが表示されます。
 - リソースプールが設定されている場合 - リソースプールのページで、OMIVV の展開先となる仮想サーバーのプールを選択してください。
 - リソースプールが設定されていない場合 - ホスト / クラスターのページで、OMIVV の展開先となるホストまたはクラスターを選択してください。
13. ホストで 1 つ以上のデータストアが使用可能な場合、データストアのページが表示されます。OMIVV ファイルの保存先の場所を選択し、**次へ** をクリックします。
14. **ディスクの形式** ウィンドウで、仮想ディスクを保存する形式を選択します。
 - a. **シックプロビジョン Lazy Zeroed**
Lazy-zeroed のシックディスクは作成された時に割り当てられたすべてのディスク容量がありますが、各ブロックは最初の書き込みでのみゼロが書き込まれます。その結果、作成は短時間で済みますが、最初に書き込まれるブロックのパフォーマンスは遅くなります。それに続く書き込みは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。
 - b. **シックプロビジョン Eager Zeroed [推奨]**

Eager-zeroed シックディスクでは、作成と同時にすべての容量が割り当てられてゼロが書き込まれます。そのため、ディスク作成の時間が増えますが、各ブロックに対する最初の書き込みでさえも最高のパフォーマンスが得られます。

c. **シンプロビジョン [推奨されません]**

シンプロビジョンの仮想ディスクに必要な容量は、作成の時ではなく最初の書き込みの時に割り当てられてゼロが書き込まれます。何も書かれていないファイルブロックに最初に書き込むときの I/O コストは大きく (Lazy-zeroed のシックディスクと同様) なりますが、その後のシンプロビジョンディスクでの書き込みでは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。

15. **次へ** をクリックします。

16. **宛先ネットワーク** の下で、アプライアンスに適切なネットワークを選択して、**次へ** をクリックします。



メモ: OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

17. **完了の準備** ウィンドウで、OVF 展開タスクに選択したオプションを確認し、**展開後に電源を投入** を選択して **完了** をクリックします。展開ジョブが実行され、完了ステータスウィンドウが表示され、ジョブの進捗状況を確認できます。

必要な権限を持つユーザーによる vCenter サーバーの登録

vCenter サーバーの vCenter 管理者資格情報または必要な権限を持つユーザーで、OMIVV アプライアンス用の vCenter サーバーを登録できます。

必要な権限を持つユーザーを有効にして vCenter サーバーを登録するには、次のステップを実行します。

1. 役割を追加してその役割の権限を選択するか、既存の役割を変更し、その役割に対して選択されている権限を変更します。vSphere クライアントで、役割の作成または変更と権限の選択に必要な手順については、VMware vSphere のマニュアルを参照してください。役割の該当するすべての権限の選択については、「[権限の定義](#)」を参照してください。



メモ: vCenter の管理者が役割を追加または変更する必要があります。

2. 役割を定義し、その役割の権限を選択したら、ユーザーおよびその役割を、対応するインベントリオブジェクトに割り当てます。vSphere クライアントでの権限割り当ての詳細については、VMware vSphere のマニュアルを参照してください。以上で、必要な権限のある vCenter サーバーユーザーが、vCenter の登録と登録解除ができるようになります。



メモ: vCenter の管理者は vSphere クライアントで権限を割り当てる必要があります。

3. 必要な権限を持つユーザーを使用して、管理コンソールで vCenter サーバーを登録します。「[必要な権限を持つユーザーによる vCenter サーバーの登録](#)」を参照してください。

4. OMIVV の操作を実行するには、手順 1 で作成または変更した役割にデルの権限を割り当てます。「[役割へのデルの権限の割り当て](#)」を参照してください。


以上で、必要な権限のあるユーザーが Dell ホストの OMIVV 機能を利用できるようになります。

権限の定義

vCenter サーバーを登録するために必要な権限を持つユーザーを有効にするには、次の権限を選択します。

- アラーム
 - アラームの作成
 - アラームの変更
 - アラームの削除
- 内線番号
 - 拡張子の登録
 - 拡張子の登録解除

- 拡張子の更新
- Global (グローバル)
 - タスクのキャンセル
 - ログイベント
 - 設定
- Host (ホスト)
 - CIM
 - * CIM インタラクション
 - 構成
 - * 詳細設定
 - * 接続
 - * メンテナンス
 - * パッチの問い合わせ
 - * セキュリティプロファイルとファイアウォール
 - インベントリ
 - * クラスタにホストを追加
 - * スタンドアロンホストの追加
- ホストプロファイル
 - 編集
 - 表示
- 許可
 - 権限の変更
 - 役割の変更
- セッション
 - セッションの検証
- タスク
 - タスクの作成
 - タスクの更新


 **メモ:** 指定された権限が割り当てられていない場合は、使用可能な権限のあるユーザーで vCenter サーバーを登録中に、エラーメッセージが表示されます。

必要な権限を持つユーザーによる vCenter サーバーの登録

必要な権限を持つユーザーで OMIVV アプライアンス用に vCenter サーバーを登録できます。vCenter サーバー登録の詳細については、vCenter サーバー登録の詳細については、[OMIVV の vCenter 内での登録とライセンスファイルのインポート](#) のステップ 21 を参照してください。vCenter サーバー登録の詳細については、

役割へのデルの権限の割り当て

既存の役割を編集し、デルの権限を割り当てることができます。


 **メモ:** 管理者権限のあるユーザーとしてログインしていることを確認します。

既存の役割にデルの権限を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限で vSphere クライアントにログインします。
2. vSphere クライアントの **ホームページ** で、**役割** をクリックします。
3. 編集する役割を右クリックし、**役割の編集** を選択します。
4. Dell インフラストラクチャ展開の役割、Dell Operational Role の次の権限を選択し、**OK** をクリックします。
 - Dell
 - Dell.Configuration
 - Dell.Deploy – プロビジョニング
 - Dell.Inventory
 - Dell.Monitoring
 - Dell.Reporting

vCenter で使用可能な OMIVV 役割の詳細については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Client User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）の「Security Roles and Permissions」（セキュリティの役割および許可）のセクションを参照してください。vCenter で使用可能な OMIVV 役割の詳細については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）の

権限と役割の変更は直ちに有効になります。以上で、必要な権限を持つユーザーが、OpenManage Integration for VMware vCenter の操作を実行できるようになります。

 **メモ:** すべての vCenter 操作で、OMIVV は、ログインしているユーザーの権限ではなく、登録されているユーザーの権限を使用します。

OMIVV の vCenter 内での登録とライセンスファイルのインポート

vCenter サーバーを登録するには、次の手順を実行します。

1. vSphere クライアントから、**ホーム** → **ホストとクラスタ** を選択し、左パネルで先ほど展開した OMIVV の場所を特定して、電源が入っていない場合は **仮想マシンの電源をオンにする** をクリックします。
2. メインの VMware vCenter ウィンドウの **コンソール** タブをクリックして、管理コンソールを起動します。
3. OMIVV の起動が完了するのを待ち、**admin** のユーザー名を入力し、**Enter** を押します。
4. 新しい管理者パスワードを入力します。パスワードは、表示されているパスワードの複雑性に関するルールに従って設定する必要があります。**Enter** を押します。
5. 以前に提供されたパスワードを再度入力し、**Enter** を押します。
Enter を押して、OMIVV アプライアンスでネットワークおよびタイムゾーン情報を設定します。
6. OMIVV タイムゾーン情報を設定するには、**日付と時刻のプロパティ** をクリックし、タイムゾーンと日付を設定します。

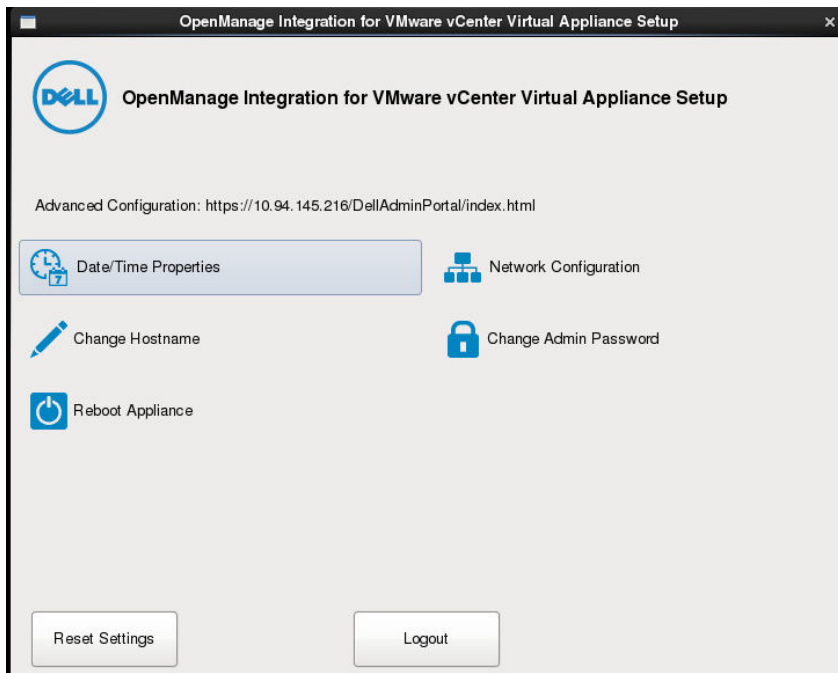


図 1. コンソールタブ

7. 日付と時刻 タブで、ネットワーク上で日付と時間の同期化 を選択します。
NTP サーバーボックスが表示されます。
8. 有効な NTP サーバーの詳細を、vCenter の同期先に追加します。
9. タイムゾーン をクリックして、該当するタイムゾーンを選択し、OK をクリックします。
10. OMIVV アプライアンスで静的 IP を設定するには、ネットワーク設定 をクリックします。またはステップ 17 に進んでください。
11. Auto eth0 を選択し、編集 をクリックします。
12. IPv4 設定 タブを選択し、方法 ドロップダウンで 手動 を選択します。
13. 追加 をクリックして、有効な IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイ情報を追加します。
14. DNS サーバー の詳細を、DNS サーバーフィールドに追加します。
15. 適用 をクリックします。
16. OMIVV アプライアンスのホスト名を変更するには、ホスト名の変更 をクリックします。
17. 有効なホスト名を入力して ホスト名のアップデート をクリックします。
18. ウェブブラウザを開き、アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名をタイプします。
例えば、<https://10.210.126.120> または <https://myesxihost> となります。URL は大文字と小文字を区別しません。

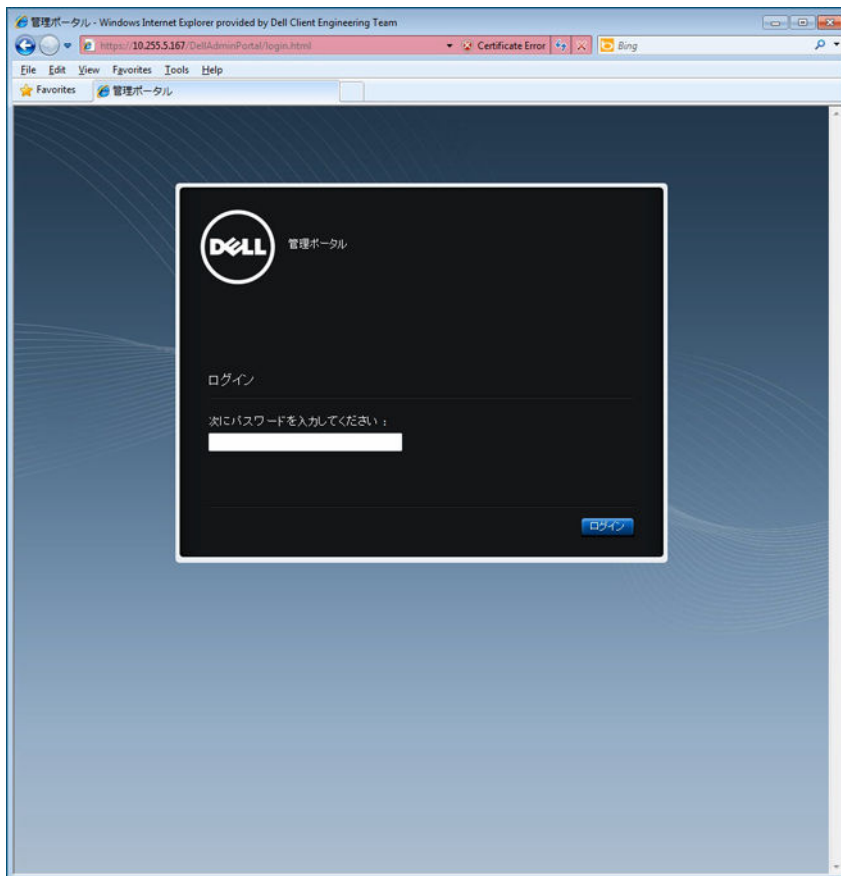


図 2. 管理コンソール

19. 管理コンソール のログインウィンドウでパスワードを入力し、**ログイン** をクリックします。

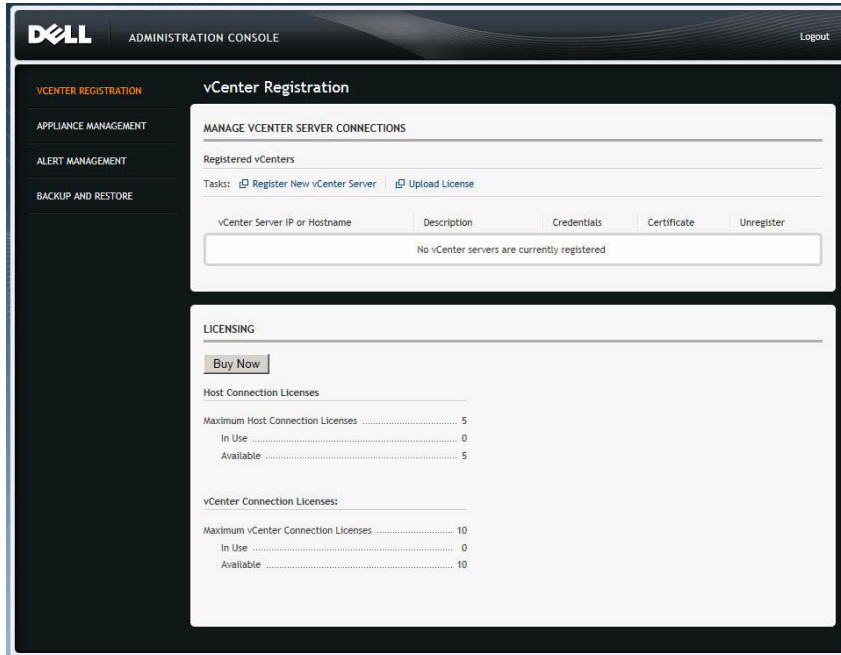




図 3. 管理コンソール内からの vCenter 登録ウィンドウ

20. **vCenter 登録** ウィンドウで、**新規 vCenter サーバーの登録** をクリックします。

21. **新規 vCenter の登録** ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. **vCenter の名前** で、**vCenter サーバー IP またはホスト名** テキストボックスにサーバー IP またはホスト名を入力した後で、**説明** テキストボックスにオプションの説明を入力します。
- b. **vCenter ユーザーアカウントの vCenter ユーザー名** テキストボックスに、管理者ユーザー名または必要な権限を持つユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー、ドメイン/ユーザー、またはユーザー@ドメインの形式で入力してください。管理者ユーザーアカウントまたは必要な権限を持つユーザー名は OMIVV for vCenter 管理によって使用されます。

 **メモ:** OMIVV の 1 つのインスタンスは、同じ vCenter SSO の一部となっている最大 10 個の vCenter をサポートできます。vCenter の複数独立インスタンスは現在サポートされていません。

 **メモ:** 完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用した OMIVV の登録が、強く推奨されます。FQDN ベースの登録では、vCenter のホスト名が DNS サーバーにより適切に解決できる必要があります。

c. **Password** (パスワード) テキストボックスにパスワードを入力します。


d. **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。

22. **Register** (登録) をクリックします。

23. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。

- OMIVV の評価バージョンをお使いの場合は、ステップ 25 に進みます。
- 完全な製品バージョンを使用している場合は、登録した電子メールの添付として送付される **license.xml** ファイルがあります。このファイルには製品ライセンスが含まれ、このライセンスを仮想アプライアンスにインポートする必要があります。ライセンスファイルをインポートするには、**ライセンスのアップロード** をクリックします。

24. **ライセンスのアップロード** ウィンドウで **参照** ボタンをクリックしてライセンスファイルの参照先を指定します。**アップロード** をクリックしてライセンスファイルをインポートします。

 **メモ:** ライセンスファイルが変更または編集されている場合、そのライセンスファイルは動作しません。

25. OMIVV が登録されると、vCenter ホームページの **管理** カテゴリの下に OMIVV アイコンが表示されます。

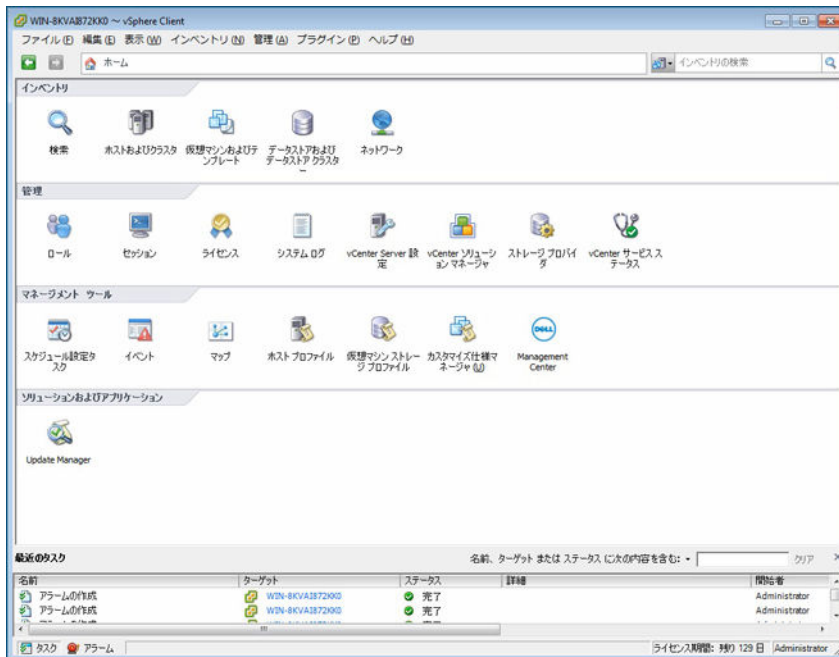



図 4. OMIVV が vCenter に正常に追加されました。

 **メモ:** すべての vCenter 操作で、OMIVV は、ログインしているユーザーの権限ではなく、登録されているユーザーの権限を使用します。

例：必要な権限を持つユーザー X が vCenter に OMIVV を登録し、ユーザー Y にはデルの権限のみがあるとします。ユーザー Y は vCenter にログインでき、OMIVV からファームウェアアップデートタスクをトリガできます。ファームウェアのアップデートタスクの実行中に、OMIVV はユーザー X の権限を使用して、マシンをメンテナンスモードにするかホストを再起動します。


インストールの検証

次の手順で OMIVV のインストールが正常に行われたことを検証します。

1. vSphere クライアントにログオンして、OMIVV のアイコンが vSphere クライアント内部に表示されていることを確認します。表示されていない場合、vSphere Client を再起動して再度確認します。
2. vCenter Server から仮想アプライアンス IP アドレスまたはホスト名宛てに ping コマンドの実行を試行して、vCenter が OMIVV と通信可能であることをチェックします。
3. vSphere クライアントで、**プラグイン** → **管理対象プラグイン** をクリックします。**プラグインマネージャ** ウィンドウで OMIVV がインストール済みで有効化されていることを検証します。

OpenManage Ingetration プラグイン 3.0 バージョンから現在のバージョンへのアップグレード

OpenManage Ingetration プラグインをバージョン 3.0 から現在のバージョンにアップグレードするには、次のいずれかの手順を実行します。


1. ウェブブラウザを開き、設定する仮想マシンの vSphere vCenter コンソール タブに表示されている管理コンソール URL を入力します。また、Dell Management Console の **ヘルプとサポート** ページに表示されているリンクを使用することもできます。URL は <https://<アプライアンスの IP アドレス>> 形式で表示され、大文字小文字を区別します。
 2. **管理コンソール** ウィンドウの左ペインで、**アプライアンス管理** をクリックします。
 3. ネットワークの設定により、ネットワークにプロキシが必要な場合は、プロキシを有効にし、プロキシの設定を入力します。
 4. OpenManage Integration のプラグインをバージョン 3.0 から現在のバージョンにアップグレードするには、次のいずれかを実行します。
 - リポジトリパスのアップデートが <http://linux.dell.com/repo/hardware/vcenter-plugin-x64/latest/> パスに設定されていることを確認します。パスが異なっている場合は、**アプライアンスの管理** ウィンドウの **アプライアンスのアップデート** セクションで、**編集** をクリックし、**リポジトリパスのアップデート** テキストボックスでパスを <http://linux.dell.com/repo/hardware/vcenter-plugin-x64/latest/> に更新します。**適用** をクリックし、更新内容を保存します。
 - インターネット接続がない場合は、<http://linux.dell.com/repo/hardware/vcenter-plugin-x64/latest/> パスからすべてのファイルとフォルダをダウンロードし、HTTP 共有にコピーします。**アプライアンスの管理** ウィンドウの **アプライアンスのアップデート** セクションで、**編集** をクリックし、**リポジトリパスのアップデート** テキストボックスで、オフライン HTTP 共有へのパスを更新し、**適用** をクリックします。
 5. 利用可能な仮想アプライアンスのバージョンと現在の仮想アプライアンスのバージョンを比較し、利用可能な仮想アプライアンスのバージョンが、現在の仮想アプライアンスのバージョンより新しいことを確認します。
 6. 仮想アプライアンスにアップデートを適用するには、**アプライアンスの設定** で、**仮想アプライアンスのアップデート** をクリックします。
 7. **アプライアンスのアップデート** ダイアログボックスで **アップデート** をクリックします。**アップデート** をクリックすると、**管理コンソール** ウィンドウからログオフされます。
-  **メモ:** OMIVV を 3.0 から現在のバージョンにアップグレードする際に、カスタム証明書は移行されないため、証明書に適用した設定を再度適用する必要があります。

2.x から 3.1 への移行のための移行パス

旧バージョンから OMIVV 3.1 バージョンに移行するには、次の手順を実行します。

1. 以前のリリースのデータベースのバックアップを行います。
2. vCenter から旧アプライアンスの電源を切ります。
 - **メモ:** vCenter からプラグインを登録解除しないでください。vCenter からプラグインの登録を解除すると、そのプラグインによって vCenter で登録されたすべてのアラーム、および vCenter での操作など、アラームで実行されるすべてのカスタマイズ操作が削除されます。
3. 新しい OpenManage Integration バージョン 3.1 OVF を展開します。
4. OpenManage Integration バージョン 3.1 アプライアンスに電源を入れます。

5. アプライアンスでネットワーク、タイムゾーンなどをセットアップします。新規 OpenManage Integration バージョン 3.1 アプライアンスの IP アドレスは旧アプライアンスと同じであることが必須です。

 **メモ:**

3.1 アプライアンスの IP アドレスが、旧アプライアンスのものと同じでない場合、プラグインが正常に動作しない可能性があります。この場合、すべての vCenter インスタンスの登録を解除して、再度登録してください。

6. 新しいアプライアンスにデータベースを復元します。
7. アプライアンスを検証します。データベース移行が正常に行われたことを確認するための詳細については、本ガイドの「**インストールの検証**」を参照してください。
8. 登録された vCenter すべてでインベントリを実行します。


 **メモ:**

プラグインで管理されているすべてのホスト上で、アップグレード後に再度インベントリを実行することをお勧めします。オンデマンドでインベントリを実行する手順の詳細に関しては、『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）（dell.com/support/manuals）で「**インベントリジョブの実行**」を参照してください。

新しい OpenManage Integration バージョン 3.1 アプライアンスの IP アドレスを、旧アプライアンスのものから変更した場合、SNMP トラップの送信先を新規アプライアンスに設定する必要があります。第 12 世代以降のサーバーでは、これらのホストでインベントリを実行することで修正されます。以前のバージョンに対応している第 12 世代以前のホストでは、この IP 変更は非対応として表示され、OMSA の設定が必要になります。

旧プラグインの登録が解除された場合に OpenManage Integration for VMware vCenter を回復する

旧バージョンのデータベースのバックアップ取得後にプラグインの登録を解除した場合は、移行に進む前に次の手順を実行してください。

 **メモ:** プラグインの登録解除により、プラグインによって登録されたアラームに実装されたカスタマイズのすべてが削除されます。次のステップでは、カスタマイズは復元されませんが、アラームをデフォルト状態で再登録します。

1. 「[2.x から 3.1 への移行のための移行パス](#)」の手順 3~5 を実行します。
2. 旧プラグインで以前登録したものと同じ vCenter にプラグインを登録します。
3. 「[2.x から 3.1 への移行のための移行パス](#)」の手順 6~8 を実行して移行を完了します。

OpenManage Integration for VMware vCenter の設定

OMIVV は、基本的なインストール後、設定する必要があります。これは通常設定ウィザードを使用して行いますが、Dell Management Center の設定ページオプションを使って行うこともできます。

両方のペイン内のユーザーインターフェースは似通っていますが、ウィザードでは **保存して続行** をクリックするのに対し、**設定** オプションでは **適用** をクリックします。

本項では、ウィザードを使用した設定について説明します。Dell Management Center の **設定** オプションを使用して OMIVV 設定する詳細に関しては、dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。



設定ウィザードようこそページ

OMIVV をインストールした後は、設定する必要があります。

1. **vSphere クライアント** の **ホーム** ページで、**管理** タブの下の **Dell Management Center** アイコンをクリックします。
初めて **Dell Management Center** アイコンをクリックする場合、**設定ウィザード** が開きます。このウィザードには、**Dell Management Center** → **設定** ページからアクセスすることもできます。
2. **ようこそ** タブで手順を確認し、**次へ** をクリックします。

新規接続プロファイルの作成ウィザード

接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するために使用する資格情報を保存します。各 Dell サーバーは、OMIVV で管理する接続プロファイルと関連付ける必要があります。設定ウィザードと Dell Management Center での接続プロファイルの作成方法は似ており、**設定** オプションで設定します。Active Directory の資格情報を使用して、iDRAC とホストに接続するよう OMIVV を接続します。接続プロファイルで Active Directory 資格情報を使用するには、Active Directory のユーザーアカウントが Active Directory と iDRAC Active Directory に存在している必要があり、ベースの認証のためのホストを構成する必要があります。Active Directory 資格情報は iDRAC とホストの両方で同一に設定にすることもできます。ユーザー資格情報に管理者権限を持たせる必要があります。


-  **メモ:** Dell PowerEdge サーバーの第 12 世代以降を使用したホストでのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。第 11 世代サーバーへのインストールでは、OMSA エージェントは導入プロセス中に自動的にインストールされます。
-  **メモ:** 追加されたホストの数が接続プロファイルの作成に対するライセンス制限を超過する場合は、接続プロファイルを作成できません。

ウィザードを使用して、新規接続プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. **接続プロファイル** タブで、**新規作成** をクリックします。
2. **プロファイル名と説明** パネルでカスタム接続プロファイルを管理しやすくするために使われる **プロファイル名** と説明を入力し、**次へ** をクリックします。
3. **関連ホスト** セクションでは、接続プロファイルに関連付けるホストを選択し、**次へ** をクリックします。
4. 資格情報と接続プロトコルの情報を表示し、**次へ** をクリックします。
5. iDRAC パネルで、iDRAC 資格情報を入力します。
 - a. iDRAC が設定済みで、Active Directory を使用する Active Directory で有効になっている場合、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外の場合は、iDRAC のローカルの資格情報（**ユーザー名**、**パスワード**、および **パスワードの確認**）を入力します。ユーザー名にはスペースを含めて 16 文字を使用できます。パスワードは一致する必要があり、印刷可能な ASCII 文字のみを入力します。
 - b. **証明書のチェック** では、**有効** を選択し、すべての将来の接続に iDRAC 証明書をダウンロードして検証するか、または **無効** を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。
6. **次へ** をクリックします。
7. **ホストルートの資格情報** パネルでは、以下を行います。
 - a. Active Directory 資格情報を有効にするには、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択する必要があります。ユーザー名、パスワード、およびパスワードの確認を入力します。
 - b. **Active Directory を使用する** が選択されていない場合は、**root** ユーザーの **パスワード** を入力して、**パスワードを確認** します。両パスワードは一致する必要があります。
 - c. **証明書のチェック** では、**有効** を選択し、すべての将来の接続に OMSA/ESXi 証明書をダウンロードして検証するか、または **無効** を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。
8. **次へ** をクリックします。
9. **接続性のテスト** ウィンドウで入力した iDRAC とホストの root 資格情報をテストします。接続のテストはオプションですが、実施されることをお勧めします。
 - テストを開始するには、ホストを選択して **選択内容をテスト** をクリックします。その他のオプションは無効になっています。
 - すべてのテストが完了する前に中止するには、**すべてのテストを中止** をクリックします。
10. プロファイルを完了するには、**保存** をクリックします。
11. イベントとアラームの設定を続けるには、**保存して続行** をクリックします。

イベントおよびアラームの設定ウィザード


設定ウィザードまたは Dell Management Center のイベントとアラームの設定オプションから、イベントおよびアラームを設定します。サーバーからのイベントの受信には、OMIVV をトラップ送信先として設定します。第 12 世代およびそれ以降のホストでは、SNMP トラップ送信先を iDRAC で設定します。第 12 世代より前のホストでは、OMSA でトラップの生成が設定されています。


 **メモ:** OMIVV は第 12 世代以降のホストで SNMP v1 および v2 をサポートしています。ホストを追加することができます。後で、第 12 世代第 12 世代より前のホストでは、OMIVV は SNMP v1 アラームをサポートしています。


イベントとアラームを設定するには、次の手順を実行します。

1. **設定ウィザード** の **イベント掲載レベル** で、以下のいずれかを選択します。
 - すべてのイベントを掲載しない – ハードウェアイベントはブロックされます。
 - すべてのイベントを掲載する – すべてのハードウェアイベントが掲載されます。

- 重要および警告イベントのみを掲載する – 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。
 - 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する – 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
2. すべてのハードウェアアラームを有効にするには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** アラームが有効化されている Dell ホストは、重要イベントに対応して保守モードに入ります。
 3. 表示されるダイアログボックスで **続行** をクリックしてこの変更を確定するか、または **キャンセル** をクリックします。

 **メモ:** この手順は、**Dell ホストのアラームを有効にする** が選択されている場合にのみ表示されます。
 4. すべての管理されている Dell サーバーで、デフォルトの vCenter アラーム設定を復元するには、**デフォルトのアラームの復元** をクリックします。
変更が有効になるには、最大1分間かかることがあります。
 5. ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

 **メモ:** OMIVV アプライアンスのバックアップを復元しても、すべてのアラームの設定を復元することはできません。ただし、GUI OMIVV には、**アラームおよびイベント** フィールドに復元された設定が表示されます。この問題を解決するには、GUI OMIVV の**管理** → **設定** タブで、イベントおよびアラームの設定を手動で変更します。

プロキシサーバーの設定ウィザード


プロキシサーバーは、設定ウィザードで、または後ほど Dell Management Center の **設定** → **プロキシ** ページを使用して設定します。

プロキシサーバーを設定するには、以下を行います。

1. **HTTP プロキシの設定ウィンドウ** で以下のいずれかを行います。
 - プロキシサーバーを使用しない場合は、**保存して続行** をクリックします。
 - プロキシサーバーを使用する場合は、**設定** で **プロキシサーバーのアドレス** を入力します。
2. **プロキシポート番号** を入力します。
3. 必要に応じて、**資格情報が必須です** チェックボックスを選択します。
4. **資格情報が必須です** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. **プロキシユーザー名** テキストボックスにプロキシユーザー名を入力します。
 - b. **プロキシパスワード** テキストボックスにプロキシパスワードを入力します。
 - c. **パスワードの確認** テキストボックスにプロキシパスワードを再入力します。
5. **プロキシでプロキシを使用する** チェックボックスを選択します。
6. これらのオプションを保存して継続するには **保存して続行** をクリックします。

インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリスケジュール設定は、設定ウィザードからの実行も、**Dell Management Center** → **設定** オプションからの実行も、ほぼ同じです。唯一の違いは、ウィザードではインベントリを直ちに実行する場合に選択するオプションが提供されることです。

-  **メモ:** OMIVV が常に最新の情報を表示するようにするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小のリソースで実行でき、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。


1. **設定ウィザードのインベントリのスケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
 - インベントリスケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - インベントリスケジュールを実行しない場合は、**Dell ホストではインベントリを実行しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. インベントリを実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。

保証取得ジョブウィザードの実行

保証取得ジョブの設定は、ウィザードから行う場合と、**Dell Management Center** → **設定** オプションから行う場合もほぼおなじです。また、ジョブキューから保証取得ジョブを今すぐ実行することができます。


保証取得ジョブを実行するには以下を行います。

1. **設定ウィザードの保証のスケジュール** ウィンドウで、以下のいずれかを行います。
 - 保証スケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - 保証スケジュールを実行しないようにするには、**保証情報を取得しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. 保証ジョブを実行したい各曜日の横にあるテキストボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。

-  **メモ:** OMIVV がインターネットに接続してホストの保証情報を取得します。お使いのネットワーク設定に応じて、保証ジョブを正常に実行するためにプロキシの設定が必要な場合があります。

展開資格情報の設定ウィザード

展開資格情報は、自動検出で検出されるベアメタルシステムと安全に通信するために使用します。iDRAC とセキュリティで保護された通信を行うために、OMIVV は初期展開用の資格情報を使用して展開プロセスの最後まで検索します。展開プロセスが完了すると、資格情報は導入時に関連付けられている接続プロファイルに変更されます。展開資格情報を変更されると、これ以降に新しく検出されたシステムはすべて、新しい認証情報でプロビジョニングされます。ただし、変更前に検出されたサーバー上の資格情報には該当しません。

-  **メモ:** OMIVV は、プロビジョニングサーバーとして機能します。展開資格情報は、自動検出プロセスでプラグインをプロビジョニングサーバーとして使用する iDRAC と通信するために使用されます。



展開資格情報の設定には、以下を行います。

1. **展開資格情報** ウィンドウで、資格情報を表示または変更できます。
2. これらの資格情報を変更するには、**ベアメタルサーバー展開用の資格情報** 下で以下を行います。
 - a. **ユーザー名** テキストボックスでユーザー名を編集します。
 - b. **パスワード** テキストボックスでパスワードを編集します。
 - c. **パスワードの確認** テキストボックスでパスワードを確認します。
3. 特定した資格情報を保存して設定ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定 ウィザード


ファームウェアリポジトリ設定には、展開済みサーバーのアップデートに使用されるファームウェアカタログの場所が含まれます。ファームウェアリポジトリの設定は最初にこのウィザードで設定するか、後で Dell Management Center の設定オプションで設定できます。さらに、ファームウェアアップデートも後で OpenManage Integration タブから実行できます。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリを設定するには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのファームウェアリポジトリ** で、ファームウェアアップデートのためにデフォルトリポジトリを選択するには、以下のいずれか1つを選択します。
 - **Dell Online**
ステージングフォルダのある、デフォルトのファームウェアリポジトリ (ftp.dell.com) です。OMIVV は選択されたファームウェアのアップデートをダウンロードし、それらをステージングフォルダに保存して、必要に応じて適用します。
 **メモ:** OMIVV がインターネットに接続してホストに適用可能なカタログおよびファームウェアパッケージを取得します。お使いのネットワーク設定に応じて、ファームウェアのアップデートタスクを Dell からオンラインで正常に実行するために、プロキシを設定する必要がある場合があります。
 - **ローカル / 共有リポジトリ**
これらは Dell Repository Manager アプリケーションを使って作成されます。このローカルリポジトリはネットワーク共有である必要があります。OMIVV は NFS と CIFS 共有の両方をサポートしています。
2. **ローカル / 共有リポジトリ** を選択した場合、以下を行います。
 - a. 次のフォーマットを使って、**カタログファイルの場所** を入力します。
 - xml ファイル用の NFS 共有: host:/share/filename.xml
 - gz ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.gz
 - xml ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.xml
 - gz ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.gz
 - b. CIFS 共有を使用する場合、**ユーザー名**、**パスワード**、**パスワードの確認** を入力します。両パスワードは一致する必要があります。これらの欄は CIFS 共有を入力する場合にのみアクティブになります。
 **メモ:** 共有ネットワークフォルダのユーザー名 / パスワードには、@ 文字は使用できません。
3. この選択を保存して **設定ウィザード** を継続するには、**保存して続行** をクリックします。

OMSA リンクの有効化ウィザード

OMIVV 仮想アプライアンスで OMSA を起動するには、OMSA Web Server (OMSA ウェブサーバー) のインストールと設定が必要です。ウェブサーバーのインストールおよび設定の手順に関しては、『*Dell OpenManage Server Administrator Installation Guide*』(Dell OpenManage Server Administrator インストールガイド) を参照してください。


 **メモ:** OMSA は、第 12 世代のバージョンより前の Dell サーバーでのみ必要になります。


OMSA を使用して、以下を行うことができます。

- vCenter エレメント (詳細センサ / コンポーネントレベルの正常性情報) の管理。
 - コマンドログおよびシステムイベントログ (SEL) の消去。
 - NIC 統計情報の取得。
 - OMIVV が選択したホストからのイベントをキャプチャしていることを確認します。
1. 設定ウィザードの **OpenManage Server Admin** ページで **OMSA Web Server** の URL テキストボックスを使って OMSA URL を入力します。HTTPS を含む完全な URL を入力する必要があります。
 2. この URL を保存して設定ウィザードを終了するには、**終了** をクリックします。

Dell iDRAC Auto-Discovery の設定

デルのサーバーを購入し、プロビジョニングサーバーの IP アドレスを提供すると、自動検出機能をサーバーで有効にするよう求められます。プロビジョニングサーバーの IP アドレスは OMIVV の IP アドレスです。この場合は、Dell からサーバーを受け取った後に iDRAC をマウントして接続した後に電源をオンにすると、サーバーは自動検出されます。サーバーは、展開ウィザードの最初のページに一覧表示されます。

 **メモ:** 自動検出されたサーバーについては、OS の展開が完了するまでの間のサーバーとの通信に **Dell Management Center** → **設定** → **展開用資格情報** で提供される資格情報を使用します。OS の展開が正しく完了したら、関連する接続プロファイルで提供される iDRAC 資格情報が設定されます。

 **メモ:** サーバーホワイトリストが無効になっているか、自動検出されるべきサーバーのサービスタグが、**Dell Management Center** → **設定** → **セキュリティ** の下の **サーバーホワイトリスト** に追加されているかを確認します。

手動で自動検出オプションを有効にするには、ターゲットマシン上で次の手順を実行します。

1. 初回起動時にターゲットシステムを起動または再起動し、F2 を押してセットアップユーティリティに移動します。
2. **iDRAC 設定** → **ユーザー設定** に移動して、root ユーザーを無効にします。root ユーザーを無効にするときに、他のユーザーが使用していないことを確認します。この iDRAC にアクティブな管理者権限を持つユーザーがいないことを必ず確認してください。
3. **戻る** をクリックしてから **Remote Enablement** をクリックします。
4. **自動検出を有効にする** を **有効** に設定し、**プロビジョニングサーバー** を OMIVV の IP アドレスとして設定します。
5. 設定を保存します。
6. 次回のサーバー起動時にサーバーが自動検出されます。自動検出が正常に完了した後、root ユーザーが有効になり、**自動検出を有効にする** フラグは自動的に無効になります。

NFS 共有の設定

Dell OMIVV でバックアップと復元作業、ファームウェアアップデート、および作業フォルダとして NFS 共有を使用するには、一定の設定項目の実行が必要です。CIFS 共有には追加設定は必要ありません。

NFS 共有の設定には、以下を行います。

1. NFS 共有をホストしている Linux または Unix OS マシンで、**/etc/exports** を編集して **/share/path <アプライアンス IP> (rw) *(ro)** を追加します。

これにより、仮想アプライアンスは完全に共有の読み書きができるようになりますが、他のユーザーは読み取り専用となります。

2. nfs サービスの開始 :

```
service portmap start service nfs start service nfslock status
```




メモ: 上記の手順は、使用している Linux ディストリビューションによって異なる場合があります。

3. すでにいずれかのサービスが実行されている場合は、以下を行います。

```
exportfs -ra
```

OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンス

この章は、OMIVV のライセンスに関する詳細について説明しています。バージョン 3.1 に対する新しい変更点はありません。

 **メモ:** OMIVV のライセンス取得によって、vCenter 接続ライセンスの数が増えることはありません。vCenter のライセンスの最大数は 10 です。複数の vCenter を登録する必要がある場合、すべての vCenter が同じ SSO の一部である必要があります。複数の vCenter での別々のインスタンスは、この OMIVV リリースではサポートされません。

ライセンスタイプ

バージョン 3.1 には、評価用ライセンスと標準のライセンスの 2 種類のライセンスがあります。これらのライセンスでは、期間と Dell 第 11 世代以降のホストの数に基づいて、機能が制限されています。

評価用ライセンス

OMIVV バージョン 3.x アプライアンスの電源を初めてオンにすると、評価ライセンスが自動的にインストールされます。この評価用ライセンスでは、初回起動から 90 日間の評価期間は機能をブロックせずに、OMIVV で 5 台のデル ホストの第 11 世代およびより新しいホストを操作および管理できます。標準ライセンスをアップロードすると、評価ライセンスは使用できなくなります。

標準ライセンス

標準ライセンスはデルから購入できます。管理下の VMware ESXi を実行している第 11 世代以降のサーバー台数と製品サポートの期間に基づいて、ライセンス注文時に異なる購入 SKU が使用されます。ライセンスには、3 年または 5 年間の製品サポートとアプライアンスアップデートが含まれます。

アップロード済みライセンスに関する情報の表示

ライセンスに関する情報は複数の場所で表示できます。ライセンスは、Dell Administration Console でライセンスのアップロードリンクを使用した場合にのみ、アップロードできます。特定のライセンスについての情報は、3.1 リリースでは使用できません。

- **Dell Administration Console :**
使用中および消費されたライセンスの情報を、Dell Administration Console の vCenter 登録ページで見ることができます。
- **Dell Management Console :**

ライセンスに関する情報を統合で見ることができます。ライセンス情報については、Dell Management コンソールの「概要」ページから、またはクライアントを使用する場合は、OMIVV ライセンス タブから見ることができます。

- **ライセンスのメッセージ：**

情報、エラー、または警告メッセージを表示できます。

- a. **ライセンスの有効期限がもうすぐ切れます：**

ライセンスの有効期間の残存日数を通知する、ライセンスの有効期限が 30 日以内に切れるというメッセージが表示されます。

- b. **ライセンスの有効期限が切れて猶予期間内です：**

ライセンスの期限が切れると、90 日間の猶予期間に入ります。

- c. **すべてのライセンスの有効期限が切れています：**

すべてのライセンスの有効期限が切れた場合は、メッセージが表示されます。さらに、評価ライセンスを使用している場合は標準ライセンスへのアップグレードができない、使用できない機能がある、などのライセンス強制があります。

- d. **ホストライセンス数を超えています：**

接続プロファイルを作成または編集しようとする場合に、接続プロファイルに追加する新規サーバーで使用可能なライセンスの数を、ホストのライセンス数が超過している場合、エラーメッセージが表示されることがあります。このメッセージを受信した後で、新しいホストの追加に成功するには、少なくとも 1 つの有効なライセンスが存在することを確認して、接続プロファイルに一度に追加するサーバー数を少なくするようにします。これによって、次にサーバーを追加する前に新規追加したサーバーでインベントリが完了できます。

ライセンスのアップロード

ライセンスを購入すると、ライセンスファイルが含まれた電子メールが送信されます。このライセンスは、Web ベースの管理コンソールからアップロードするもので、アプライアンスの IP アドレスを使用してアクセスできます。

1. ライセンスは、VCenter 登録ページのライセンスのアップロードリンクを使ってアップロードします。
2. ライセンスのアップロードリンクをクリックすると、ライセンスのアップロードダイアログボックスが表示されます。
3. ライセンス XML ファイルを参照して、アップロードをクリックします。



メモ: ライセンスファイルは zip ファイルの形式で送信される場合があります。zip ファイルを解凍し、ライセンスファイル (xml ファイル) のみをアップロードするようにしてください。ライセンスファイルには通常、123456789.xml など、注文番号に基づいた名前が付いています。

4. ライセンスのアップロードに成功すると、ライセンスファイルのアップロードに、成功したことを知らせるメッセージが表示されます。

ライセンスのアップロード後のオプション

新しく購入された製品のライセンスファイル

新しいライセンスを購入すると、新しいライセンスファイルを含む電子メールがデルから送信されます。このライセンスは、.xml 形式でお届けしています。ライセンスが zip 形式の場合、XML ファイルのライセンスを抽出し、アップロードします。

ライセンスのスタッキング

OMIVV バージョン 2.1 から、標準のライセンスを複数スタックすることが可能となりました。これにより、アップロードされているライセンスのホストの合計に、サポートされるホストの数を追加できます。評価ライセンスはスタックできません。スタックでは、サポートされている vCenter の数を増やすことができず、複数のアプライアンスを使用する必要があります。

ライセンスのスタック機能には、いくつかの制限事項があります。既存の標準ライセンスの有効期限が切れる前に、新しい標準ライセンスをアップロードした場合は、ライセンスはスタックされます。それ以外の場合、ライセンスの有効期限が切れている状態で新しいライセンスをアップロードすると、新しいライセンスのホストの数だけがサポートされます。すでに複数のライセンスがアップロードされている場合、サポートされるホストの数は、最後にライセンスがアップロードされた時点で期限が有効なライセンスのホストの合計です。

期限切れのライセンス

サポート期間（通常、お買い上げの日付から 3~5 年）を経過したライセンスは、アップロードがブロックされます。アップロードした後にライセンスの有効期限が切れた場合、既存のホストの機能は続行しますが、OMIVV の新バージョンへのアップグレードはブロックされます。

ライセンスの交換

ご注文に関する問題があり、デルから交換用のライセンスを受け取った場合、交換用のライセンスの資格 ID は以前のライセンスと同じになります。交換用のライセンスをアップロードする際、同じ資格 ID のライセンスがすでにアップロードされていると、そのファイルは置き換えられます。

強制

アプライアンスのアップデート

すべてのライセンスが失効している場合、アプライアンスは新しいバージョンへの更新を許可しません。アプライアンスをアップグレードしようとする前に、新しいライセンスを取得してアップロードします。

評価用ライセンス

使用可能なライセンスが失効すると、いくつかの主要分野は作業を停止し、エラーメッセージが表示されません。

接続プロファイルへのホストの追加

接続プロファイルにホストを追加しようとして、第 11 世代以降のライセンスの数がライセンス数を超過した場合、ホストを追加することはできません。

その他の構成情報

OMIVV の設定、管理、および展開オプションの完全ガイドについては、Dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

関連文書とリソース

このガイド以外にも、その他のガイドを利用できます (dell.com/support/manuals)。マニュアル ページで、**製品の表示** カテゴリの **製品の表示** をクリックします。 **製品の選択** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** → **仮想化ソリューション** をクリックします。 **OpenManage Integration for VMware vCenter 3.1** をクリックして、次のドキュメントにアクセスします。

- *OpenManage Integration for VMware vCenter Quick Installation Guide for vSphere Web Client Version 3.1 (vSphere Web クライアントバージョン 3.1 向け OpenManage Integration for VMware vCenter クイックインストールガイド)*
- *OpenManage Integration for VMware vCenter for Desktop Client User's Guide Version 3.1 (Desktop Client 向け OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイドバージョン 3.1)*
- *OpenManage Integration for VMware vCenter for Web Client User's Guide Version 3.1 (Web クライアント向け OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイドバージョン 3.1)*
- *OpenManage Integration for VMware vCenter Release Notes Version 3.1 (OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノートバージョン 3.1)*
- *OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix Version 3.1 (OpenManage Integration for VMware vCenter 互換性マトリックスバージョン 3.1)*

delltechcenter.com では、ホワイトペーパーなどの技術成果物を検索できます。Dell TechCenter Wiki のホームページで、**システム管理** → **OpenManage Integration for VMware vCenter** をクリックすると各記事を参照できます。

デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- 次のリンクを使用します。
 - すべての Enterprise システム管理マニュアル – Dell.com/SoftwareSecurityManuals
 - OpenManage マニュアル – Dell.com/OpenManageManuals
 - リモートエンタープライズシステム管理マニュアル – Dell.com/esmanuals
 - OpenManage Connection エンタープライズシステム管理マニュアル – Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
 - Serviceability Tool マニュアル – Dell.com/ServiceabilityTools
 - OpenManage Connections クライアントシステム管理マニュアル – Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals
 - OpenManage 仮想化ソリューションマニュアル – Dell.com/VirtualizationSolutions
- Dell サポートサイトから、
 - a. Dell.com/Support/Home に移動します。
 - b. **製品の選択** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** をクリックします。

- c. ソフトウェアとセキュリティ グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - エンタープライズシステム管理
 - リモートエンタープライズシステム管理
 - **Serviceability Tools**
 - **Dell Client Command Suite**
 - 接続クライアントシステム管理
 - 仮想化ソリューション
- d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。